

きんせい もくせい せっきん
金星と木星の接近

夕方の西の空には、ひときわ明るい星が見えています。これは「宵の明星」金星です。金星は1等星の100倍以上の明るさです。さらに、ずっと上を見上げると、もうひとつ明るい星が見えてきます。こちらは、木星で1等星の20倍ほどの明るさです。どちらの星も、まわりの星と比べると、飛び抜けて明るいので、すぐに見つけることが出来るでしょう。

金星も木星も、地球と同じ惑星で太陽のまわりをまわっています。そのため、地球から見ると星座の間を動いていきます。特に金星は、地球に最も近く惑星なので、動きも速く、わずか数日で見える位置が変わっていくのに気がつきます。

6月の夕方の西の空では、日を追うごとに、木星が金星にどんどん近づいていくように見えます(図1)。7月1日の夕方には、木星と金星の距離が満月の大きさよりも近づきます(図2)。星の中でも1番明るい星と2番目に明るい星が接近して輝く様子は、とても、印象深いものになるでしょう。

10倍程度の双眼鏡や天体望遠鏡で70~80倍ほどに拡大してみると、三日月になった金星と、ガリレオ衛星を従えた木星を同時に見ることが出来ます(図3)。しかし、金星と木星の間の実際の距離はおおよそ8億kmとすごく離れています。

また、7月1日以外でも、6月19日~21日の夕方には、金星と木星のすぐ近くで、三日月も光っていますので、大変にぎやかな夕空になるでしょう。

最近では、感度の高いデジタルカメラもたくさんあります。カメラを固定して、数秒ほどの露出で写すことが出来ますので、試してみてもいいでしょう。

(布村克志)

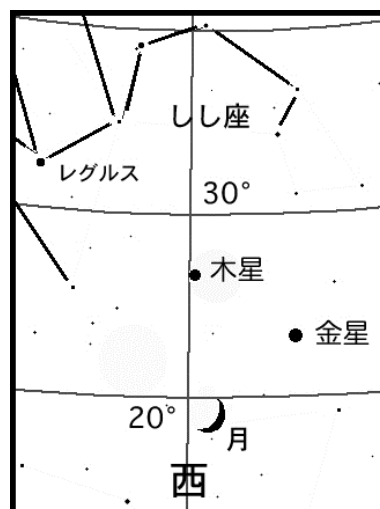


図1. 2015年6月20日午後8時30分頃西空。



図2. 2015年7月1日午後8時30分頃の西空。

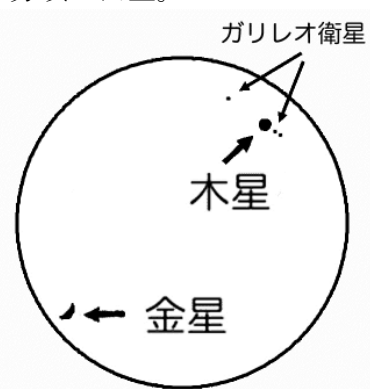


図3. 70~80倍でみたところ。